

# 8 平和記念公園レストハウスの運営と地域商社事業への取組み

観光情報の発信や特産品の販売等を通じて地域の賑わい作りに貢献

広島県・広島市 | 広島銀行

銀行（金融・ビジネスマッチング）×電鉄（交通・輸送）×新聞社（情報発信・イベント運営）×旅行会社（旅行）の4社が協働し、観光情報の発信、特産品の開発・販売の取組みがスタート。さらに、ひろぎんホールディングス本社ビルの建て替えに続き、広島市の中心部の再開発を進め、地域の賑わい作りを目指す。



広島市平和記念公園レストハウス（レストハウスホームページ）

## 広島市の概要

（人口）1,197,499人（2021年3月1日現在）

- ・第二次世界大戦での原爆投下により、「国際平和文化都市」として世界的に知名度が高く、他の地方都市と比べて外国人の観光客も多い。
- ・広島市平和記念公園、原爆ドーム、折り鶴タワー、厳島神社（宮島）、マツダスタジアムなどの観光スポットも多く存在。
- ・市内の公共交通機関はJR以外に、路面電車が発達している。
- ・国内でも有数の牡蠣の名産地であるほか、国産レモンの発祥地でもある。

## 地域の賑わい拠点がオープン

広島へ来る観光客が必ず立ち寄る広島市平和記念公園。そこに2020年7月、レストハウスがオープンした。このレストハウスは、被爆前の面影を残す唯一の建物であり、国内外から訪れる観光客に被爆地の歴史と記憶を伝え、歴史、ひと、まち、未来と広島を繋ぐ新たな交流拠点とすることをコンセプトとしている。

館内を一回りしてみよう。1階には、県内や中国地方の観光情報を発信する観光案内カウンターのほか、県内の話題の商品や土産物等を扱う物販コーナー（レストハウスショップ）がある。2階には、被爆した女学生の遺品であり平和の祈りを伝える「被爆ピアノ」が展示。喫茶コーナー（ピアノカフェ）も併設されている。3階の展示室では、被爆前の平和記念公園周辺の町の様子をパネルで紹介。さらに、地下1階には、全焼した建物の中で唯一被爆時の状態のまま残された地下室や、被爆体験記の資料等を見学することができる展示室がある。

館内全体として、平和への願いを巡らせることができる施設となっている。



ピアノカフェ（広島銀行提供資料）



レストハウスショップ（広島銀行提供資料）



展示室（広島銀行提供資料）

## レストハウスの運営から地域商社事業へ

広島銀行は、地方創生の観点から、地元の広島電鉄㈱、中国新聞社とともに「広島市中心部の賑わいづくりのために何か一緒にできないか」として協議を重ねてきた。そうした中、2019年5月、広島市から「広島市平和記念公園レストハウス指定管理業務」の公募が発表され、3社でコンソーシアムを組んで応募、同業務の受託に成功した。

そのための事業運営組織として、広島電鉄と中国新聞社が共同出資する旅行会社（たびまちゲート広島）に広島銀行も資本参加し、2019年10月、同社内に地域商社事業部を新設。広島銀行からも行員2名が出向してレストハウスの運営に取り組みとともに、地域産品の開発・販売などの地域商社事業への進出も進めている。

地域商社事業の第一弾として、広島市から「圏域特産品事業（広島市補助事業）」を受託した。広島市を中心に24の近隣市町が連携協約を締結して「広島広域都市圏」を形成。同社が「広島広域都市圏」で作られた優れた商品を厳選・ブランディングし、自社E Cモール（ひろしまあたり）やレストハウス内の実店舗で販売を行っている。



広島食材のフレーバーが楽しめるかりんとうセット（ひろしまあたりホームページ）



広島県産牡蠣のオイル漬（ひろしまあたりホームページ）

## 新本社ビルも情報発信拠点に

広島銀行とひろぎんホールディングスは、広島市中心部で建て替えを進めていた新本店・本社ビルを2021年5月にオープン。同ビル1階の「にぎわいフロア」には、街の賑わい創出のため、たびまちゲート広島が運営するライフスタイルマーケット「BANCART」を開業。銀行由来の商品や、文房具、食器、調味料、スイーツなどの食品まで、広島県内を中心に近隣地域のこだわりの商品約300種類、700アイテムを販売している。



「BANCART」の店内の様子



県内メーカーとコラボした文房具（広島銀行提供資料）

「にぎわいフロア」には、広島県内に本社を置く大手製パン会社とたびまちゲート広島が共同運営するカフェも併設。このカフェ専用開発されたメニューは人気を博している。その他、イベントスペースもあり、地元テレビ局が定期的に公開収録を行ったり、地元企業のワークショップが開催されるなど、人々の交流促進・情報発信の場としての価値を高めている。



新本社の1階の様子（広島銀行提供資料）

広島銀行の担当者は、「カフェや物販店の出店については、銀行グループでスキルを持ち合わせていなかったため、関係する専門家にノウハウを教えてもらいながら、店舗のコンセプト策定、人員募集・オペレーション構築・マニュアル作成などの拠点運営に挑戦しました。銀行からの出向者は、地域商社事業に携わることで、銀行にいた時以上に川上から川下までの商流を把握することができ、また、その過程（商品のデザインやプロモーション等）がとても重要なことを身をもって実感しています」と取組みの苦労を語る。

## 今後の展望

たびまちゲート広島は、レストハウスやひろぎんホールディングス本社ビルなどの拠点を起点として、着地型観光商品の企画も進めるなど、観光活性化にも取り組んでいる。

広島銀行の担当者は、「通常は、年間150万人が平和記念公園を訪れますが、今年度はコロナ禍の影響で観光客が少なく、レストハウスの来場者も当初の計画を下回る状況です。今後、コロナ禍が収束しインバウンドが回復することを見据えて、売上増加を図っていきたいと考えています」と語る。

「広島市中心部は、2025年までに広島駅の建替えや、広島市の中心部に位置する中央公園広場へのサッカースタジアムの新設など、複数の再開発事業が進んでいます。平和記念公園近くの平和大通りではPark-PFI（公園整備・運営を行う民間事業者の公募）も予定されている。広島銀行が地元企業とコンソーシアムを組んで参画するほか、たびまちゲート広島が地域商社機能を発揮し、集客施設の運営に取り組むことで、広島市中心部の回遊性向上に寄与していきたいと考えています」（広島銀行）と意気込みを見せる。



原爆ドーム（Microsoft Bing）